

新年のごあいさつ

笠間市長 山口伸樹

あけましておめでとうございます。
市民の皆さまには、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返って

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、国内でも特別措置法に基づいた外出の自粛や多くの業種・施設への休業要請、大規模イベント等の中止および延期など、異例の事態が発生しました。

本市の地域経済にも甚大な影響をもたらし、私たちの日常生活が一変した年となりました。

本市独自の緊急支援策では、除菌消臭液の配布や「KASAMA BOX」によるひとり親世帯、妊婦、学生等への物資の支援、感染拡大で影響を受けた交通、宿泊、イベント等事業者支援、プレミアム付商品券の発行、医療従事者等へのPCR検査の充実などに取り組んできたところです。

一方で、制約を受けた環境から、未来に繋がる気づきや視点が生まれ、本市にとって明るい話題も数多くありました。

5月に笠間焼海外販路開拓プロジェクトが



スマートインターチェンジ新設候補地の笠間PA

「令和2年度JAPANブランド育成支援等事業」の採択を受け、英国を拠点に現地バイヤーとの商品開発などが進められることとなりました。また、6月には、本市と益子町が共同申請したストーリー「かさましこく兄弟産地が紡ぐ、焼き物語」が日本遺産に認定され、両地域が長い年月を掛けて育ん

できた焼き物の文化が高く評価されたところ
です。

8月には、公民連携によって、既存の公共宿泊施設のリノベーションを行い、グランピング施設を追加されたアウトドアリゾート「ETOWA KASAMA」が新たにオープンしました。

また、9月には、本年秋季に開業予定の「道の駅かさま」建設工事の起工式、10月には、北関東自動車道笠間パーキングエリアが、スマートインターチェンジの新設候補地となり、国の準備段階調査事業に採択されるなど、未来に向けた新たな一歩を踏み出しました。

新年の抱負

現在の社会は、コロナ禍を契機とした社会変化と同時に、急速な人口の減少や少子高齢化の進行、インフラの老朽化や自然災害の増加など、課題が多岐にわたる中で、デジタルシフトなどの社会的な潮流、リモート化、新しいライフスタイルに対応するための対策が必要となつていきます。

本市としても「第2次総合計画」や「第2

期総合戦略」に基づき、新たな時代の取り組みを進めてまいります。

◇ひと

はじめに、「ひとづくり」においては、多様な人材の育成および確保策を展開します。

本年4月に笠間市子ども家庭総合支援拠点を設置し、妊娠期から子育て期にわたる総合的な相談などへの対応や、虐待が疑わ



岩間中学校の遠隔授業

れたり、経済的困難を抱えている児童等への支援など、関係機関との連携を行ってまいります。

小・中・義務教育学校では、GIGAスクール構想の実現に向けて、児童生徒1人1台の端末を整備するとともに、快適な学校生活を送れるよう小学校特別教室等へのエアコン新設を進めます。

さらに、東京オリンピック・パラリンピック大会の機運醸成を図り、関連イベントやホストタウンの台湾、エチオピアなどとの交流を深めます。

◇もの

次に、「ものづくり」においては、稼ぐ力の強化につながる支援を展開します。

まず、地場産業の振興について、日本遺産認定を契機として、伝統的工芸品「笠間焼」の国内外への販路拡大や稲田みかげ石の公共事業への活用など、積極的な情報発信や支援等に取り組んでまいります。

日本有数の栗の産地の「笠間の栗」をはじめとした農産物の経営規模の拡大や販路拡大、ブランドの構築、6次産業化に向けた取り組みを継続して進めます。

また、農業従事者の後継者不足に対しては、就農の準備段階からのサポートなどにより総合的に支援してまいります。

観光振興では、「笠間台湾交流事務所」を

拠点としつつ、周辺自治体との広域的な連携を強化し、インバウンドの取り組みを進めます。また、自然や文化などの体験型観光の内容充実に向け取り組みます。

◇まち

次に、「まちづくり」においては、公民連携による持続する基盤を強化します。

まず、交通、観光、産業などさまざまな分



整備中のスケートパーク

野における交流の拠点となる重点「道の駅」の整備において、本年秋の開業に向けて農産物直売所など施設の建築工事を進めます。

企業誘致につきましては、昨年までに茨城中央工業団地に9社の企業進出が決定しています。今後も地域経済の活性化や雇用機会の創出のため、早期の操業開始に向けた支

援などにより、積極的な誘致に取り組みます。

また、笠間芸術の森公園内に新設するスケートパークのオープンに向けた取り組みや、市の中心部の市街地に有事の際の避難場所等としても利用可能な、市民の憩いの場となる「多目的広場」の整備を進め、順次供用を開始してまいります。

近年頻発する自然災害から市民の生命・財産を守るため、令和2年から3年にかけて防災行政無線デジタル化の整備や自主防災組織が運営する届出制自主避難所への支援、避難所開設時における感染症対策など、防災対策のさらなる強化に取り組めます。



かさま歴史交流館井筒屋に掲げられた日本遺産の横断幕

また、温室効果ガス排出実質ゼロをめざし、脱炭素社会の実現に向けた取り組みを

積極的に推進してまいります。

今後も財政運営は一層厳しさを増すものと見込まれており、「選択と集中」を徹底し、限られた資源を適切に活用して効率的で質の高い行政サービスを提供していくため、ごみ処理施設の統一、し尿処理施設の効率的な処理体制の検討や下水道料金等の公共料金の見直し、北山公園やクラインガルテンにおける公民連携の推進など、人口減少社会における持続可能なまちづくりを推進します。

さらには、行政のデジタル化を推進し、ワンストップサービス（転入・転出・出生手続き）やシステムの導入による窓口手続きの効率化、子育て・福祉に関するオンライン相談など、次世代型行政サービスを推進してまいります。

以上、本年のまちづくりへの抱負の一端を述べさせていただきます。

丑年は、先を急ぐことなく、一步一步着実に物事を進めることが、将来の成功につながる年とされています。本市の将来像「文化交流都市」の実現に向けて、歩みを止めず市政運営に取り組んでまいります。

結びに、本年も変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様にとりまして希望に満ちた年になりますよう心からお祈り申し上げます。